

高松大学 高松大学大学院 高松短期大学 認定こども園高松東幼稚園

2025. 3



2025年春 発達科学部に 子どもビジネスコースを開設

高松大学発達科学部

学部長 松原 勝敏



2006
(平成18)年
に「子どもの
幸せを育むた

めの学び」をスローガンに高
松大学発達科学部子ども発達
学科は誕生しました。

以来、発達科学部は保育や
教育の分野をはじめ、広く子
育て支援に資する人材の育成
に取り組んで参りました。学
生たちは、児童教育コース、
幼児教育コース、特別支援教

育コースの3つの教育課程で、
それぞれの目標に向かって、
日々、学びを重ねています。

そして、今日では、香川県
をはじめとする教員採用試験
において80%以上の合格率を
達成しています。また、高松
市の保育教育士の採用試験全
合格者のうち、2020年度
には4人に1人、2023年
度には3人に1人が発達科学
部生からの合格者となりました。
加えて、特別支援学校や
私立の保育・幼児施設はもち
ろんのこと、地域の福祉施設
や企業などにも多くの人材を

輩出し、地域における主要な
人材養成機関としての役割を
担っています。

ところで、今日、少子化が
大きな社会問題となっていま
すが、その一方で、子どもビ
ジネスの市場規模は10兆円を
超え、今後の発展が期待され
る領域となっています。子ど
もビジネスは、おもちゃや子
ども服、ゲーム・映像・音楽
コンテンツ、そして子育て支
援にかかる各種サービスの提
供など市場の範囲が広く、ま
た、直接に子ども向け商品を
扱ってはいない企業において
も、家庭に商品を提供するに
当たって子どもの存在を意識
した商品開発やプロモーション
が重要な課題となっていま
す。

そのような中、卒業生の約
3割が一般企業や福祉施設、
子育て関連団体等に就職して
いる発達科学部では、子ども
に関する知識技能に加え、ビ
ジネスに関する知識技能の育
成も必要であると考え、教育
内容等を検討して参りました。
そこで、発達科学部の教育

高松大学 発達科学部 子ども発達学科

子どもビジネス コース 2025年4月 新コース誕生!

今、注目の子ども関連ビジネスで
子どもや家族に**笑顔**を
届ける**仕事**をしませんか!

このコースでは、子ども関連ビジネス(玩具・遊具メーカー、児童書出版社、
テーマパーク、子ども服メーカーなど)で活躍する人材の育成をめざします。
発達科学部の特色ある教育活動や経営学部の関連科目を履修し、子ども向け
の商品・サービスを新たに創り出す力やビジネス現場に必要な知識・スキルを身
につけることができます。

子どもが大好き
おもちゃ、絵本、ゲームが好き
企業で子どもと関わる
仕事がしたい

めざす進路

ベビー用品会社 アパレルメーカー	玩具・遊具メーカー 児童書出版社
幼児教室 学習塾 体育指導関連会社	テーマパーク アミューズメント施設 子育て支援団体 など

挑戦したい資格や検定

- 子ども発達士資格
- 認定基本士資格(申請中)
- 販売士検定 ●上級情報処理士資格
- ITパスポート試験 ●簿記検定
- など

発達科学部 子ども発達学科 発達教育コース 幼児教育コース 特別支援教育コース 子どもビジネスコース

高松大学
発達科学部 子ども発達学科 経営学部 経営学科

〒761-0194 香川県高松市春日町960番地
TEL.087-841-3255 FAX.087-841-3064
https://www.takamatsu-u.ac.jp/

学位記授与式

研究の成果と企業等で活躍す
る人材の育成に大きな実績を
あげている高松大学経営学部
の教育研究の成果を融合させ
たコースを開設することとな
りました。

発達科学部子ども発達学科
子どもビジネスコースは、2
025(令和7)年4月に誕生
します。高松大学発達科学
部の今後の発展にご期待くだ
さい。

令和6年度の大学・大学院・
短期大学の学位記授与式が、
3月19日、レクザムホール
(香川県県民ホール)で行わ
れ、大学・大学院・短期大学
234名が学び舎を巣立つ。
今年度も就職状況は好調で、
香川県等の公立小学校・特別
支援学校に大学発達科学部か
ら現役・既卒を併せて18名が
合格した。また、公立幼稚
園・保育所にも大学発達科学
部、短期大学保育学科から多
数合格しており、大学経営学
部、短期大学秘書科からの企
業等への就職も併せ、4月か
ら新たなスタートを切る。

春日川の水ぬるみ、屋島山嶺の木々にも春の芽吹きが彩を添える今日の佳き日に、ご来賓ご家族また関係各位のご臨席を得て、本学令和6年度学位記授与式を挙行できますことは、誠に慶びに堪えません。本学教職員を代表して厚く祝意と感謝の意を表します。

ただ今、大学158名、大学院2名、短期大学74名、計234名の皆様が、めでたく学位記を授与されました。それは、この歴史と自然に恵まれた田園都市高松に立地する本学に集い、学部・学科により期間の長短はありますが、それぞれに学問や研究に励まれ、初志貫徹された証であります。ここに、これまでの皆様の努力に対して敬意を表し、心からおめでとうとお祝いの詞を述べたいと思います。特に、県外や国外から遊学された皆様には、格別のご苦労があったのではないかと推察します。

さて、本年度は「南海トラフ地震臨時情報」の初めての発表、昨年1月1日午後発生した能登半島地震からの復興をめざす被災地で起こった記録的大雨などの自然災害、相次ぐ闇バイト強盗など、様々な意味で悲しい出来事がありました。

令和6年度学位記授与式学長告辞



高松大学学長
高松短期大学学長
加 昌道

加 昌道

し、モダニズムの最先端に触れながら民主主義の街づくりを学び、空襲によって焼失した高松の街に民主主義の時代にふさわしい建物を創ることをめざしたのです。「観光県香川の象徴となる県庁舎を建てたい！」との声が丹下氏に届き、実現したのでした。金子氏は、「日本的なるもの」、そして「人の心を豊かにするために」をスローガンとして深く香川県民と関わっていたのです。

今日の記念すべき日に改めて戦後の香川の復興に努められた金子正則氏の足跡に触れたのは、皆様に、物事を成し遂げるためにしっかりとした信念とチャレンジ精神や自由な発想を持ち、社会で活躍していただきたいと考えたからです。

さて、卒業後、公務員・銀行・一般企業などに進まれる経営学部・秘書科の皆様、また、小学校・幼稚園・保育所・子ども関連施設・企業などに進まれる発達科学部・保育学科の皆様、それぞれ進む道は異なり、直面する課題も多様であると存じます。

しかし、皆様が本学で学んだ、対話を重んじ、理論と実践の接点を開拓するという精神を忘れず、進取の気概を持って、自らが属している職場や地域社会の中で人との絆を大切に、日々起こる小さなことを疎かにすることなく、自分の役割を果たし、愛され、信頼される存在となりますよう期待して、餞の告辞といたします。

ところで、老朽化で新しいアリーナにバトンタッチする「船の体育館」は、東京オリンピックが開催された1964年に、世界的な建築家丹下健三の設計によって創られました。その丹下氏が1958年に設計された香川県庁舎は、国の重要文化財に指定されています。指定の理由は、日本の伝統的な意匠を鉄筋コンクリート造で巧みに表現している点や1階のピロティやロビーを県

学長表彰

本学では、学術・文化・スポーツなどで顕著な成果を挙げた学生を対象に「学長表彰」の授与を行っています。令和6年度後期（令和7年2月末現在）の表彰は以下のとおりです。

クラブ・個人名	適 用	表 彰 日
ハンドボール部	[スポーツ部門] 第76回日本ハンドボール選手権大会四国ブロック予選 優勝	令和6年10月24日
サッカー部	[スポーツ部門] 四国大学サッカーリーグ（兼 全日本大学サッカー選手権大会四国地区予選） 準優勝	令和6年12月13日
植松 なのは（秘2）	[学術部門] 秘書科優秀学生（資格取得・学業成績・人物等において秘書科推薦基準を満たす者）	令和7年2月20日

高松大学

発達科学部

大学生活を振り返って

発達科学部子ども発達学科4年



久米 夏実

私が高松大学で過ごした4年間は、とても濃い時間でした。

まず、県外から来て何も分からずにいた私に声をかけてくれ、受け入れてくれた友人との出会いがありました。香川県のこと、大学のことなど多くのことを教えてくれました。そして戦友となり、共に夢に向かって走り続けた結果、夢をかなえることができました。また、大学の先生方も私と真剣に向き合ってくれ、成長することができました。

大学ではたくさんの経験をします。私は、大学4年間の経験によって社会人への大きな一歩を踏み出すことができましたと思っています。それは、すばらしい友人、先生方に会えたおかげです。

皆さんも、これからの出会いを大切に、大学生活が人生の起点となるような4年間にしてください。

ウインターフェスティバルに参加して

発達科学部子ども発達学科4年

今城 里彩
私は、1年生の時から毎年、ステージに立らせていただきました。

1年目はなんとなく参加を決めました。本番後の達成感を味わい、そこから毎年の演奏会が楽しみになりました。独唱で日独伊仏と毎年違う言語の曲にチャレンジし、それぞれの言葉の美しさを届けることができました。

最後となった4年目は、友達とアンサンブルでクリスマスメドレーを演奏しました。夏からコツコツと準備をしたことも、舞台ドレスを着て友達と写真を撮ったことも、互いにヘアメイクをし合ったことも楽しい思い出です。

一緒に取り組んでくれる仲間と支えてくれる先生方、ホールでの演奏の機会など、恵まれた環境の中で好きな音楽ができたことは、特別な体験であり、かけがえのない思い出となりました。



経営学部

就職活動を通して学んだこと

経営学部経営学科4年



幸 聖也

就職活動を通して、多くの貴重な経験と学びを得ました。まず、自分自身の強みや弱みを見つめ直すきっかけとなり、自己分析の重要性を実感しました。履歴書やエントリーシートの作成を通じて、自己PRや志望動機を明確にするスキルも向上しました。また、企業研究を行う中で、業界や職種に対する理解が深まり、自分に合ったキャリアを考えるようになりました。

面接では、緊張感を持ちながらも自分の思いを伝える力やコミュニケーション能力を鍛えることができました。多くの人と出会い、ネットワークを広げることで、視野も広がりました。最後に、失敗や挫折を経験しながらも、諦めずに挑戦する大切さを学び、成長を実感しました。就職活動は大変でしたが、自分自身を深く知る貴重な時間となりました。

就職活動は自分を知り、成長させてくれるチャンスです。良い就活活動にしてください。

経営学部で「大学生のための租税講座」を開催

12月18日、「基礎演習Ⅱ」(経営学部1年生科目)において、高松税務署の小北副署長による「大学生のための租税講座」が開催された。

税金の意義やしきみ、財政と税制の現状等に関する講義とともに、国税職員の業務内容や脱税摘発のDVDを視聴した。さらにスマホを利用した確定申告の疑似体験も行った。国会では、103万円の壁やガソリン減税が議論されていた時期であり、また年明け2月からは確定申告も始まることから、本講座は時宜に合ったテーマである。

学生からは「小学生のころ、税金は人々が安全で豊かな生活を送るために使われていると学んだ。だからこそ、納税者として税が適切に使われているか関心をもつべきである」と思った。「税金の適正かつ公平な賦課及び徴収の実現を図るために、国税査察官が脱税者の不正を暴く姿が印象に残った。」「納税手続にもデジタル化が進んでいることを知った」などの感想が聞かれた。



探訪/研究室

発達科学部 佐々木 啓祐

自己紹介



中学校教員を定年退職し、高松市教育委員会の研修指導員を経て、高松大学5年目を終えています。

これまで、兼職で通信制高校の非常勤講師をしたり、県教育委員会からアートの先生を委嘱され、幼児の造形教育に携わってきました。

ゼミナールの特徴

「面白いから自主性が育つ！」「子どもたちが夢中になって取り組む造形活動」が合言葉です。皆で楽しく造形教材の開発に取り組んでいます。

ゼミ生へ一言

幼児への指導に際して、色彩感覚や構成感覚は必要ですが、絵がうまい！なんて、ほとんど必要ありません。求められる資質は造形活動を楽しんで行うことです。

二十歳の時の自分

同じ大学のオーケストラのメンバーであった現在の妻と交際1年目でした。今年で49年目を迎えています。

高松短期大学

保育学科

■保育学科での

2年間を振り返って

保育学科2年 妻鹿 唯花



保育学科での2年間は、あつという間でした。とても忙しい日々でしたが、一番の思い出は、昨年12月に参加した第65回中・四国保育学生研究大会です。保育現場における防災教育をテーマにした人形劇を発表しました。発表までに、子どもたちに分かりやすい言葉の表現やパネルの制作、音源づくり等を仲間と一緒に試行錯誤して取り組みました。こども園の子どもたちにも人形劇を観てもらい、

私たちが気付かなかった視点を、本番までに改善して大会に臨みました。本番前は



緊張しましたが、「大丈夫、頑張ろう!」と仲間と言葉を掛け合い、最後まで力を出し切ることができました。

学生生活で得ることが出来たたくさんさんの経験や知識は、糧となつて就職後の力になると思います。これまでご指導してくださった先生方に心から感謝いたします。2年間ありがとうございました。

■讃岐おもちゃ美術館でワークショップを開催

保育学科1年 朝山 円香



私たち美術研究室の1年生は、昨年12月15日、高松市にある讃岐おもちゃ美術館で「手袋人形の工作体験をしよう!」を開催しました。未

就学児と保護者を対象に、カラフルな子ども用手袋に大小さまざまなフェルトパーツを飾り付け、サンタクロースやトナカイを製作しました。

子どもたちの中には、自らハサミを使って、積極的に自分の作りたい形に切つて飾り付け、オリジナルの手袋人形に仕上げた子もいました。保護者の方々にもサポートしていただき、クリスマスを前に



子どもたちの期待を形として表現することができました。子どもたちは、出来上がった手袋人形を大切そうに持って帰ってくれて、私たちは大変嬉しかったです。

手袋人形を通して、季節の行事に親しみながら造形活動を楽しむことができるワークショップでした。

ビジネスデザイン学科
(秘書科)

■短大生活を振り返って

秘書科2年 井澤 里奈



秘書科での2年間は、とても忙しい日々でしたが、

充実した毎日を送ることができました。

1年生のときは、検定がとんでもなく、1ヶ月に複数の検定を受けることもありましたが、辛い時もありましたが、同じ目標を持った友人や、熱心に

指導してくださる先生方のおかげで乗り越えることができました。

2年生になると、本格的に就職活動が始まりました。就職活動では礼儀や言葉遣いなど、秘書科で学んだことが多く生かされたと思います。不安なことばかりでしたが、研究室の先生が親身になって相談に乗ってくださり、アドバイスをいただくことで、自信を持って就職活動に取り組むことができました。

秘書科での2年間は多くの出会いがあり、自分自身を大きく成長させてくれたと感じます。社会人になっても、秘書科での思い出を忘れずに一杯頑張りたいと思います。

■グローバル研修に参加して

ビジネスデザイン学科1年 大道 彩香



台湾でのグローバル研修は非常に濃く

貴重な経験となりました。私にとって初めての海外であり、台湾の文化や食は日本と異なる部分が多く新鮮でした。中国語や英語を使う場面が多く、授業で学んだことを生かして、自分の語学力を試す機会に恵

まれ、コミュニケーションの大切さを改めて実感することができました。

また、九份、龍山寺、台北101、中正紀念堂など、台湾を代表する観光地を訪ね、台湾の文化や歴史を肌で感じました。一人ひとりがそれぞれの研修先について調べ、それを役立てることで、より充実した時間を過ごすことができたように思います。

この研修を通して、自分の成長を実感するとともに、台湾という国の魅力を深く理解することができました。このグローバル研修での経験すべてが、私にとって一生の思い出です。



高松大学ハンドボール部 「日本ハンドボール 選手権大会」に出場

昨年12月、大阪府で開催された「第76回日本ハンドボール選手権大会」に、高松大学ハンドボール部が四国ブロック代表として出場した。

初戦の相手は、ジャパンオープントーナメントチャンピオンのFOG（千葉県）であった。立ち上がりから、持ち前のアグレッシブなDFからの速攻で得点を重ねることができたが、徐々に流れを返した。後半、津波古や秦野、大田の活躍によって得点を重ね、終盤5点差まで縮めるものの、相手の連続速攻により失点を重ね、29対38で敗戦となった。



本大会には新チームで挑んだことでミスも多く、チームの連携も不十分

ではあったが、来シーズンにつながる良いチャレンジができた。全国の舞台で一つでも多く勝てるよう、日々努力を重ねていきたい。

「チアダンスステージ in 高松大学・高松短期 大学」を開催



学・高松短期大学」を開催した。

高大連携の一環として、本学主催、香川県高等学校文化連盟応援専門部、香川県高等学校応援連盟共催で実施するもので、関係する高等学校校応援部のチアリーダーを招待して講習会を開催すること、で、技術の向上や地域貢献



認定こども園高松東幼稚園ニュース

幼稚園に鬼が来た!!

今年の節分は2月2日(日)。幼稚園では、3日に恒例の赤鬼と青鬼がやって来ました！スモックのポケットに豆を忍ばせ、「豆があるから大丈夫！」と気合い入魂。園庭に「♪鬼は外…」の曲と同時に、鬼が出現！「きゃー」という悲鳴と共に豆まきのスタートです。勇敢に真正面から豆を投げる子、逃げながら涙を浮かべながらも豆を投げる子、隅の方からこっそり豆を投げる子、参加の仕方はそれぞれです。



豆を持っている間は強気！豆がなくなると大慌て…。勇気を出した分きつと心の中の悪い鬼も退治できたことでしょう！

豆まきが終わると「鬼に豆を投げれた！」と誇らしそうな子どもたち。話は尽きません。転んだ時に助けてくれたり頭を撫でてくれたりして、鬼の優しさも感じたようです。行事や経験を通して子どもたちの心は逞しく成長しています。笑いあり涙ありの豆まきとなりました。



に資することを目的としている。

今年度は、高松北高等学校、高松南高等学校、高松西高等学校、香川中央高等学校、丸亀高等学校、小豆島中央高等

学校、藤井学園寒川高等学校の応援部が参加し、一般社団法人日本チアダンス協会のインストラクター指導のもと、ワークショップや発表会を行った。

探訪！研究室

ビジネスデザイン学科秘書科 井上 浩巳

●自己紹介



本学に来て18年目を迎えます。専門は言語学（外国語教育）。グローバルビジネスコースを担当しています。コロナ禍が明け、海外旅行熱が再燃。現在、香港旅行を計画中。

●研究室の特徴

1年次の台湾への海外研修を機に、韓国や香港へ旅行に行ったり、思い立ったらまずチャレンジしてみたりと、アクティブな学生が多い研究室です。外国や異文化に関心が高まる活動に取り組んでいます。

●研究室の学生へ一言

励ましているつもりが逆に元気をもらい、相談に乗っているつもりが、いつの間にかアドバイスをもらっています。みんなに感謝しています。「いつもありがとう。」

●二十歳の時の自分

将来、自分はいつたい何をしたのか、そのために今何をすべきなのか、真剣に悩んでいた時期でした。2年生の前期は、大学と下宿先を往復するだけの日々。でも、その悩み抜いた時間があつたからこそ、進むべき道が見え、今があると思っています。

クラブ・サークル活動紹介

ジャグリングファーム

発達科学部子ども発達学科2年

藤枝 哲平

■クラブ・サークルの活動内容

私たちジャグリングファームは、週に3回、2号館前の芝生広場で活動しています。学期ごとに部員の時間割を確認し、空きコマを活動日に行っています。

昨年は、高松だけでなく丸亀にもボランティアに行き、計9回程の体験会とショーを行いました。

■クラブ・サークルの特徴

ジャグリングの体験会やショーでは、参加者にジャグリングを教え、成功できた喜



びを間近で見て感じられます。また、主な活動人数は6人程と少人数ですが、学年を越えて、仲良く活動しています。部員全員が大学生になってから始めているので、スタートラインが同じなこともあり、お互いの技を見せ合ったりアドバイスし合うなど協力して活動しています。

キラリ☆輝く人 秘書検定準1級に合格



秘書科2年

増田 夕華子さん

秘書検定は、秘書に求められる知識・技能について問われる。中でも、上級秘書としての能力が求められ、様々な場面での的確な判断力や対応力が問われる準1級に合格した。

増田さんは、「秘書検定では一般常識や敬語の使い方、電話応対やビジネス文書の作成など、社会人に欠かせない能力を多く身に付けることができた。このことは日々の生活、特にアルバイトにおいて実感することが多く、それが自身の向上心にも繋がっている。合格に向け多くの温かなご指導をくださった先生方に、心から感謝の気持ちを伝えたい。」と語ってくれた。

せとうち観光専門職短期 大学と単位互換に関する 協定を締結

昨年8月29日、せとうち観光専門職短期大学と本学との単位互換に関する協定を締結し、令和6年度後期から受け入れ及び派遣を開始した。

この協定は、両大学において相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的としており、これまで以上に教育内容の豊富化や多様な学修ニーズに対応し、学生の選択の幅を確保することが可能となった。

学生の関心や興味に応じ、両大学の特色あるカリキュラムの中から提供された、所属する大学にはないユニークな授業科目を履修し合い、相互の交流がますます深まることを期待している。



「高松市まちづくり タウンミーティング」 を開催



昨年10月7日は発達科学部と保育学科の学生、11月6日は経営学部と秘書科の学生が参加し、本学多目的ホールで「高松市まちづくりタウンミーティング」を開催した。

このタウンミーティングは、これからの時代を担う若者世代に対し、まちづくりについて考える機会を創出するとともに、第7次高松市総合計画に掲げるめざすべき都市像「人がつどい 未来に躍動する世界都市・高松」の実現に向けて開催されたものです。

人口減少、少子・超高齢社会の進行などの高松市の現状と課題や創造都市の推進、シフトフロントの開発、子育て施策などの地方創生に向けた基



本となる考え方や今後のビジョンについて、大西市長から説明があり、その後、学生たちと意見交換、質疑応答を行った。

意見や質問などを発言した学生たちはもちろん、参加した学生たちにとっても、高松の魅力や再認識し、市政の課題と向き合い、地域の発展を願って地域創生に取り組む良い機会となった。

編集後記

☆学園グッズとして、「キャンパスフラットポーチ」を作製しています。カジュアルなキャンパス生地のポーチで、スモークピンク、ナイトブラックの2色に、本学のロゴと「たーちゃん」が入った、とてもかわいいデザインです。完成をお楽しみに。

(N)